

安全と安心を国へ要望する

12月20日（金）、岩木川鶴田地区の河川改修事業についての説明会が国際交流会館ホールで開催され、町民約250人が参加しました。

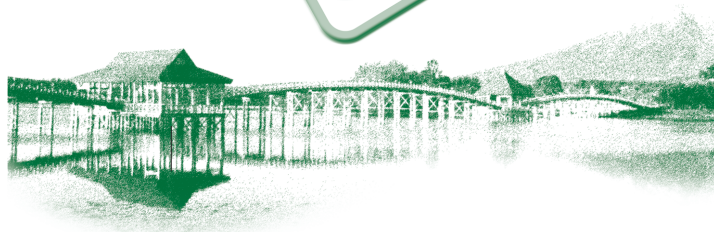
説明会では青森河川国道事務所が9月16日に発生した台風18号による岩木川増水で発生した当町の堤防の漏水・越水箇所の解説と今後の改修事業計画について説明をしました。

続いて、町水防団の櫻井博孝副団長が被害当日の活動状況の報告をしたあと、被災農家を代表して町議会の下山勝明議員がリンゴ園地の被害状況の報告と併せて、国による河川敷内のリンゴ園地の買い上げ、防災用サイレンの設置などを要望しました。

このほか、質疑応答では参加した町民からも「水位計を設置してほしい」といった要望が挙げられていました。



△水防団へのライフジャケットの配備を要望する櫻井副団長



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。（22-2111 内線264）

五ッ太鼓を学ぶ

鶴田町太鼓の会（渋谷三鈴会長）では、12月21日（土）～23日（月）まで、鹿児島県より「正調五ッ太鼓宗家小牟田流」三代目家元の瀬戸口留美子さんと師範の内村千鶴さんを招いて五ッ太鼓の指導を受けました。今回は、これまでの曲の復習と「丹頂鶴音頭」「さつま町民音頭」など新曲3曲の演奏を家元と師範が自ら指導。会員の皆さんは真剣な眼差しで汗を流しながら曲を身につけていました。

内村さんは「会の皆さんは曲の飲み込みが早いし、何より楽しんで太鼓をやっていると感じます」と話し、瀬戸口さんは「今回のように（家元や師範から）太鼓の指導を受けることができるのは、互いの町の交流があるからであって、会の皆さんはすごく幸せだと思います」と話していました。



△太鼓の会のみなさんに指導をする師範の内村千鶴さん

リンゴの出来は剪定にあり

1月4日（土）、鶴田地区りんご支会連絡協議会ほか各種農業団体の共催による新春の剪定会が行われ、町のリンゴ生産者約150人が参加し、剪定技術を学びました。

開催にあたり、鶴田地区りんご支会連絡協議会の奈良陽一会長が「昨年は2年連続の豪雪や台風18号により当町のリンゴ生産に甚大な被害が出るなど暗い話題が多かったが、今年は災害もなく農業に携える喜びを生産者の皆さんが感じることができる年にしましょう」とあいさつをしました。講師を務めた青森県りんご協会企画理事の吉村初雄さんは「今年は花芽の量が少ないので花芽をとらないように枝を切ってください」と話すなど、生産者の皆さんへ丁寧に剪定の方法を教えていました。



△「どの花芽に良いリンゴになるのか見極めて」と話す吉村さん



△参加者の皆さんの意見を聞きながら講義が進められました

傾聴する力を身に付ける

1月10日（金）、鶴田町保健福祉センター「鶴遊館」で、平成25年度傾聴ボランティア養成講座「傾聴力を磨く」が行われ、傾聴に興味のある町民が参加しました。全3回の講座は平成25年度自殺対策緊急強化事業の一環として弘前大学大学院保健学研究科助教授・あおもりのちの電話研修副委員長の田中真さんを講師に迎え、NPO法人ほほえみの会の協力のもとで開催されました。

第1回目の講座では、田中さんが傾聴の基本的知識やカウンセリング技法などについて説明。「悩んでいる人の隣人として支えるために傾聴ボランティアは大事な存在。3回の講座を通して『よく聴くこと』とはどういうことなのか学んでもらいたい」と話していました。

親子で楽しむバルーンアート

1月18日（土）、つるた街プロジェクト（岡詩子代表）が「ふうせんや さとら」代表、世界公認バルーンアーティストの北澤由美子さんを講師に招き、鶴田町公民館でバルーンアート体験を開催し、町内に住む親子など約30人が参加しました。

体験では2月3日の節分の日になんで風船を使い鬼のお面を制作。講師の北澤さんは「割れないように風船をひねる時は空気の入れ方が重要です」とコツを話すと、参加した皆さんは互いにやり方を教え合いながら、色とりどりの細長い風船を割らないようにひねってつなげていました。

参加した太田紗愛さんは「風船が割れないように力を入れすぎずにひねるところが難しかった」と話していました。



△バルーンアートを通し、親子で楽しい時間を過ごしていました